

気候変動への対応と
エネルギー問題(SDGs)
解決に向けた
国際的・国内的展開から
最新のグリーン技術に関する
技術と知識を獲得

奈良県の持続的発展には水素を中核として脱炭素化を推進することが重要であることから、「水素社会実現に向けた新たなプロジェクト」などを発表し、令和6年度から水素利活用にも本格的に着手するとともに「水素基本計画」を策定し取組を推進していくことが表明されました。そのような状況の中、カーボンニュートラルに向けた国際・国内戦略、地球上でのCO₂発生の現状、水素・二次電池・小水力発電などの分散型電源に関する技術と知識を獲得することによって、脱炭素戦略の策定や実践に向けた取り組みの促進のために、本プログラムを策定しました。

留意点

- ・本講座受講前に履修ガイダンスを受講してください（無料）。
- ・講師が所属する企業の同業他社の方はお断りする場合があります。

申込フォーム QRコード



<https://forms.gle/rGnGDVpHGHoXLtGd9>

お問合せ先

国立大学法人奈良国立大学機構
奈良カレッジズ連携推進センター
リカレント教育推進部門

TEL : 0742-20-3834
mail : nara_recurrent@cc.nara-wu.ac.jp

気候変動と エネルギー

受講対象者

企業経営者（事務ならびに技術管理職含む）、金融機関職員、自治体職員、中小企業支援団体職員など

受講形態

- ・対面実施と双方向同時配信（演習含む）
- ・オンデマンド受講可能（原則座学のみ）

受講証明

一定基準を満たした場合、デジタル認証（オープンバッジ）が取得できます

受講料

3,300円（税込）

実施日時

2024年10月～12月（裏面参照）

実施会場

奈良市北魚屋東町 奈良国立大学機構（奈良女子大学内）ほか
（下記地図参照）

*学外が会場になる場合があります

募集人員

20名程度

*同企業・団体様からの複数申込については、人数を制限させていただく場合があります

申込方法・期限

申込方法：左記申込フォームにて受付

申込期限：2024年10月11日（金）※申込期限延長

*定員に達した場合は、期限前であっても募集を締め切りさせていただく場合があります

近鉄奈良駅①番出口から北へ徒歩6分

法人本部棟1階



*駐車スペースには限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

講義・講師紹介

10/24 (木) 16:30-18:00

カーボンニュートラルに向けたエネルギーイノベーション

講師：新エネルギー・産業技術総合開発機構 仁木 栄

カーボンニュートラルに向けた国内外の動向やNEDOの活動基軸となる総合指針を紹介するとともに、カーボンニュートラルを実現するために不可欠な技術革新について議論します。



11/5 (火) 16:30-18:00

宇宙から地球を見たら - CO₂と森林

講師：奈良女子大学 村松 加奈子

宇宙から人工衛星を用いて地球環境の観測が行われています。本講義では、大気中の二酸化炭素濃度や森林のモニタリングについて紹介し、気候変動下の炭素・水循環における森林の機能について考えていきます。



11/7 (木) 16:30-18:00

水素燃料電池自動車(FCEV)の現在地

講師：トヨタユナイテッド奈良株式会社 石田 義人

次世代のクルマとして注目されている水素燃料電池自動車 (FCEV) の仕組みや歴史を解説するとともに、これからの可能性や現在抱える課題等について販売現場の視点から独自に切り込みます。(当日は実車見学も予定)



11/18 (月) 16:30-18:00

未来社会における蓄電池

講師：奈良女子大学 山本 健太郎

持続可能な社会の実現のためには、電気自動車、自然エネルギーなどの活用が必要であり、そこで鍵となる技術がリチウムイオン二次電池に代表される蓄電池です。本講義では、蓄電池の発展を振り返りながら今後の社会における蓄電池の重要性と求められる機能について概説します。



11/28 (木) 16:30-18:00

住民と企業が協同して復活させたつくばね小水力発電所

講師：東吉野水力発電株式会社 大谷 彩貴

東吉野村にある「つくばね小水力発電所」を、住民と企業が協同で復活させた経緯と、小水力発電所の運営と現状についてお話します。



12/5 (木) 16:30-18:00

地域・中小企業におけるカーボンニュートラルに向けた取り組みの現状と課題

講師：大和信用金庫 榎田 健広

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、国内外でさまざまな動きが見られますが、この問題は国や大企業だけの関心事ではありません。本講座では、地域や中小企業における取り組みの現状と課題について考察していきます。

